

自分から行動すること

社会福祉学部社会福祉学科 2年 神谷 元基

活動先：NPO 法人 地域福祉サポートちた

クラス：野尻 紀恵 先生

1. サービスラーニングを通しての自分の成長と気づき

私は、NPO 法人地域福祉サポートちたさんと一緒に活動をさせて頂いた。地域福祉サポートちたは、NPO 法人ふれ愛さんから広がった団体同士のネットワークを基に作られ、地域福祉サポートちたの母体となる「ちた在宅ネット」が誕生した。その後、特定非営利活動促進法や介護保険法から中間支援組織として「地域福祉サポートちた」を設立した。

私たちは活動目標を「若者の居場所づくり」として活動した。「若者の居場所」を活動目標にした理由は、地域福祉サポートちたのパンフレットや、サポートちたが行っている事業の冊子を見ている時に、高齢者の居場所づくりが様々な所で行われていて、居場所の大切さが分かったし、私たちも聞いたことがあった。しかし、自分たち若者の居場所は、パンフレットや冊子には載っていなかったし、聞いたことがなかったので、自分たちでやってみたいと思ったからである。また、地域福祉サポートちたの職員の人から「中間支援組織だから自分たちがやりたいことは何でもやって良いよ」と言って下さったのでやってみることにした。

私がサービスラーニングを通して気づけたことは、見学、体験することの大切さ、何かを企画することの大変さ、積極的にならないといけないことの4つである。見学、体験することの大切さは、主に1~3日目に行ったNPO 見学バスツアーと子どもNPO への訪問や、最終日に行った企画の実践で学んだ。何かを企画することの大変さは、活動最終日で学び、積極的になることは活動4、5日目の居場所の定義について決めている時に学んだ。

1つ目の見学することの大切さについては、私は今まで見学をするといった体験がなく、サービスラーニングで初めて行った。見学に関しては、今までは見学した人の話を聞けばある程度の事は分かるので、自分が見学しなくても良いと思っていた。しかし、サービスラーニングでNPO 見学バスツアーや子どもNPO への訪問をしてみて、自分が感じる事や考える事の違い、人の話を聞くだけでは分からないその場の空気や、見学した場にいる人の雰囲気は見学しないと分からないと感じた。

また、2つ目の体験することの大切さについては、活動期間外で知多市・障がい児運動クラブ『ふいっと』に参加したことを書く。普段は知多市体育館で活動しているが、私が参加した時は遠足で近くの公園に遊びに行く時だった。参加当日にボランティアの人と障がい児の1対1で行動するので、担当になる障がい児のファイルを見て、こういった活動に参加するのは初めてだったし、1対1で上手く出来るか不安だったが、地域福祉サポートちたの職員の方、周りの人に聞いたりしながらなんとか活動することが出来た。また、障がい児と触れ合うことが出来てとても良い経験になったので、機会があれば今後も参加したいと思った。この体験から「百聞は一見にしかず」という言葉があるが、本当にその通りだと感じた。だから、今後自分が興味、関心があることについては、出来る限り実際に体験してみようと実感した。

3 つ目の何かを企画することの大変さについては、今までは企画に参加するだけで完全にお客さんだったし、時には文句も言っていた。しかし、活動最終日の実践で初めて企画を作る側になって、企画を行う前の定義作りから大変だったし、企画を行うための場所、道具を借りる、時間を決めるなど沢山決めることがあった。このことから、企画を作っていく時はもちろん、参加する時もお客さんではなく、しっかり参加していこうと思った。

4 つ目の積極的にならないといけないことについては、居場所の定義について決めていた時に学んだ。私は普段からあまり意見や考えを言う方ではなく、聞かれたら意見を言う事が殆んどだった。だから、サービスマーケティングでも同じように、聞かれるまで答えずに「う〜ん」と唸っているだけだった。しかし、活動の時間に対して自分達で決めなければならないことが多かったので、お互いに焦る事が多くあった。そのため、活動を一緒にしていた人が提案した意見や考えに賛成するという事が殆んどで、自分の意見や考えを積極的に言えていなかった。この経験から常に積極的になる必要はないと思うが、時には積極的にならないといけないことを学んだ。

2. 活動を通して見えてきた地域活動や社会活動

私はサービスマーケティングの活動を通して、NPO は様々な人、地域との繋がりがとても強いことが分かった。このことは、NPO 見学バスツアーや地域福祉サポートちたの中で活動していたときに、職員以外の人々が頻繁に出入りしていることから分かったことである。福祉では自治体や社会福祉協議会、NPO が訪問介護サービスや高齢者サロンなど展開して、地域を基盤とした取り組みが行われている。しかし、実際に社会では高齢者の地域の繋がりはあるが、若者や会社に勤めている人は地域との繋がりは薄く、学校や職場の繋がりの方が強くなっている。よって、不登校の人や就職していない人は様々な人、地域との繋がりが殆どなく、孤立化する問題が今や社会問題となっている。このことから、様々な人、地域と繋がることが多いのはNPO ということと言える。

だが、NPO は資金の面から職員に満足な給料を払うことが出来ない、事業を拡大したくても拡大することが出来ない、資金がなく NPO が無くなってしまうといった問題が起きている。よって、国や自治体が支援金を出して NPO が活動しやすい環境を作ることが大切である。NPO を支援することによって、高齢者と地域との繋がりだけではなく、若者や会社に勤めている人と地域の繋がりも出来てくる。そうすることで、若者の引きこもりやフリーター、ニートの問題の中身や社会的な背景がもっと鮮明に出てくると考える。

私は将来、地域福祉分野で働きたいと考えている。だから、NPO と地域の繋がりを生かして、地域福祉を見ていきたいと考える。また、3 年生に行う実習では、どのように地域と繋がっていて、NPO の地域の繋がりとの違いを見ていきたいと思う。